

ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2024 名古屋

RoboCupJunior Japan Open 2024 Nagoya

開催概要



ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024
名古屋大会開催委員会



ロボカップ発祥の地 名古屋 (NAGOYA)

ロボカップ発祥の地、名古屋。ものづくり産業の一大拠点である名古屋は、科学技術に関心を持つ多くの市民や子ども達に支えられています。

「2050年までに、人型ロボットでサッカーのワールドカップチャンピオンに勝つ」という目標を掲げて始まったロボカップ世界大会は1997年に、ここ名古屋市で初めて開催されました。2017年にも再び世界大会を開催、約13万人もの来場がありました。また、2021年11月には愛知県で「ロボカップアジアパシフィック2021あいち」が開催され、さらなる盛り上がり期待されています。

ロボカップジュニア・ジャパンオープン名古屋開催

名古屋市がロボカップジュニアの取り組みを始めてから約20年。地区大会やブロック大会を主催し、多くの子どもたちの挑戦を支援し続けてきました。また、2017年の世界大会開催後も、次世代の人材育成のため、ロボカップジュニア・ジャパンオープンの誘致に取組み、名古屋市での開催が決定しました。

新型コロナウイルス感染症の影響による2度の開催中止を乗り越え、2019年以来となる2023年大会が無事に開催され、2024年大会についても引き続き名古屋市での開催が予定されています。

ロボカップジュニア

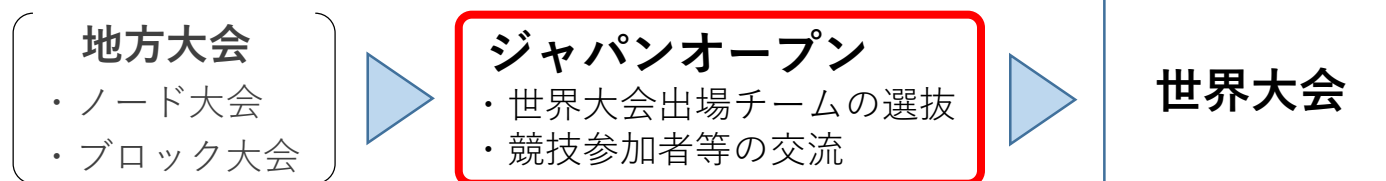
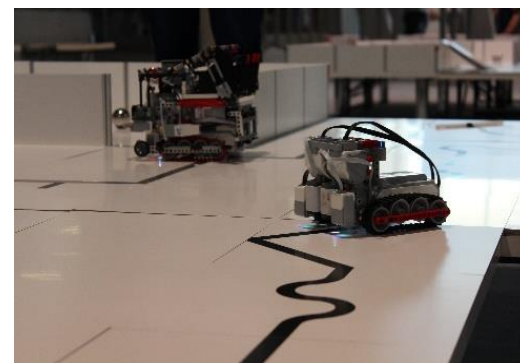
19歳以下の子供たちが参加する競技です。ロボットの設計製作を通じて次世代のロボカップの担い手を育て、3つのリーグ（サッカー・レスキュー・オンステージ）を通じて次世代のリーダーとなるための基礎基本を身につけられる協同学習の場を提供し、競争の先にある協調を目指します。



ロボカップジュニア・ジャパンオープン

ロボカップジュニア・ジャパンオープンは日本各地の地区大会を勝ち上がった選手達が、世界大会の出場をかけて競います。なお、2024年の世界大会はオランダのアイントホーフェンで開催が予定されています。

また、ジャパンオープンは世界大会出場チームを決めるだけでなく、競技を通じて国内の競技者、指導者、運営者等の交流も目的としています。



ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024名古屋

■開催概要

◆主催

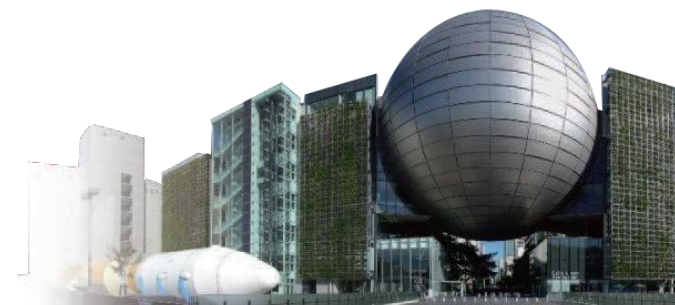
ロボカップジュニア・ジャパンオープン2024名古屋
大会開催委員会

構成団体：（一社）ロボカップジュニア・ジャパン、名古屋市、愛知県、
名古屋市教育委員会事務局、名古屋商工会議所、（一社）中部経済連合会、
（公財）名古屋観光コンベンションビューロー、名古屋少年少女発明クラブ、
（公財）名古屋産業振興公社

※開催委員会には、事務局のほか、大会運営の詳細な検討を行う
実行委員会を設置します。

◆後援 (予定)

経済産業省、文部科学省、（一社）人工知能学会、（一社）日本ロボット学会



◆開催日程 令和6（2024）年3月22日（金）～24日（日）

日 程	内 容
3月22日（金）	受付・車検・調整
3月23日（土）	開会式・競技1日目
3月24日（日）	競技2日目・表彰・閉会式

※会場設営は3月21日（木）に実施予定

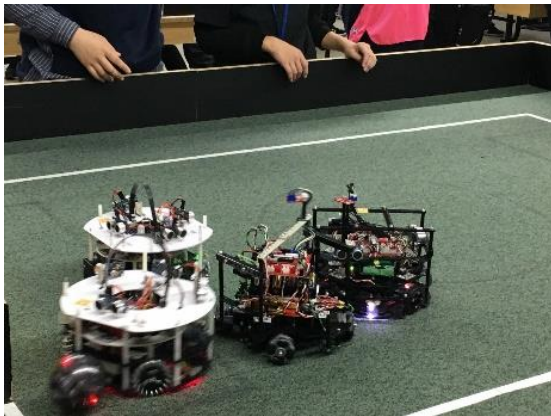
◆競技内容

競技はサッカー、レスキュー、オンステージの3つで、それぞれ、世界大会選抜を競うワールドリーグと国内で技能向上を目指す日本リーグがあります。

※参加チーム・競技者（想定） 約200チーム・500名

Soccer

サッカー



1チーム2台ずつの自律型ロボットによるサッカー競技

Rescue

レスキュー



ロボットが周囲の状況を自ら判断し、様々な障害を乗り越えて被災者を見つける競技

OnStage

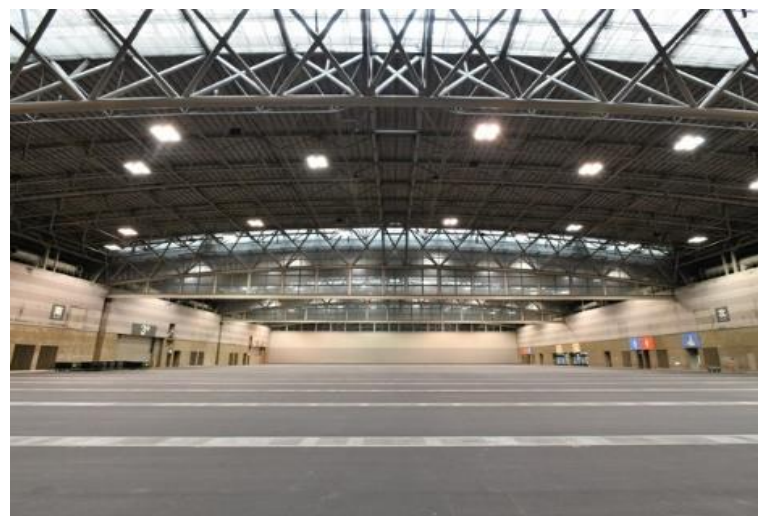
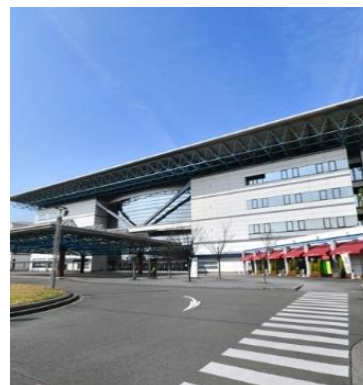
オンステージ



ロボットが規定の時間内でダンスや演技を披露する競技

◆会場 名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）第3展示館

第3展示館は延べ床面積が約13,500㎡あり、2017年の世界大会の会場としても使用されました。



◆大会広報

- ・大会広報ポスター・チラシの作成
- ・大会公式ウェブサイトの開設・運営
- ・「メッセナゴヤ2023」でのPR
- ・市広報媒体（広報なごや）への記事掲載 等

<大会キャラクター>

